

近代

第13章 第二次世界大戦と日本 1. 中国問題と軍部の政治的台頭 (1) 満州事変

解説

たくこんのひ  
「拓魂之碑」 — 満蒙開拓青少年義勇軍 —



「拓魂之碑」(湯梨浜町藤津)

満蒙開拓青少年義勇軍の送出

(送出年)	送出数
第1次(昭和3年)	174名
第2次(昭和14年)	93名
第3次(昭和15年)	308名
第4次(昭和16年)	404名
第5次(昭和17年)	440名
第6次(昭和18年)	324名
第7次(昭和19年)	350名
第8次(昭和20年)	176名

※第1・2次は他県と合同で中隊を編成した。  
※第3次以降は鳥取県出身だけで郷土中隊を編成。

1975(昭和50)年、県内の満蒙開拓青少年義勇軍の元隊員達が、満州で亡くなった拓友の霊なぐさを慰めるために合同の慰霊追悼式いれいついとうしきを行い、「鳥取県拓友会」たくゆうを結成。1976年、東郷池ほとりの畔(湯梨浜町藤津)に「拓魂之碑」を建立。毎年4月第一日曜日に慰霊祭を行っている。

まんもうかいたくせいしょうねん ぎゆうぐん  
満蒙開拓青少年義勇軍は、満州移民政策の一環として行われた青少年移民制度。日中戦争下、労働力と兵員の動員で成人の移民が困難になった1938(昭和13)年から実施。数え年16~19才の農家の二男や三男で、府県単位に募集が行われ、茨城県内原うちほらの訓練所で精神訓練と軍事訓練を2~3ヶ月行った後に満州へ渡り、現地の訓練所で3年間の訓練を経て義勇軍開拓団に移行した。開拓団移行後は、1人あたり20町歩の土地がもらえることになっていた。

戦争末期には、現地で召集され、戦後はシベリアに抑留された者もあった。

また、第8次義勇軍は渡満とまんできず、北海道で終戦を迎えた。鳥取県は、人口比で日本一の送出率であった。

【義勇軍送出実数】

- 1位 長野県 6,595人
- 2位 広島県 4,827人
- 3位 山形県 3,925人
- 4位 新潟県 3,290人
- 5位 福島県 3,097人
- ：
- 15位 鳥取県 2,287人

【義勇軍数人口比パーミル\*(%)】

- 1位 鳥取県 4.7‰
- 2位 長野県 3.9‰
- 3位 石川県 3.7‰
- 4位 山形県 3.6‰
- 5位 香川県 3.3‰
- 6位 福井県 3.2‰

\*パーミル(%)…1000分の1を1とする単位(千分率)であり、1‰は0.1%となる。

(担当：小山富見男)

参考資料

- ・小山富見男『鳥取県史ブックレット7 満蒙開拓と鳥取県～大陸への遙かなる夢～』(2011年)
- ・沖縄女性史を考える会『沖縄県と満州』\*(2004年)  
\*「第4次鳥取義勇隊※開拓団への報恩」という一節を設けて、龍江省景星県にいた沖縄の越来開拓団がソ連参戦ともなうチチハルまでの約150kmの逃避行の際、途中7回もの襲撃を受けながら鳥取の義勇軍開拓団に守られ、一人の犠牲者も出さずに帰国できたエピソードが記載されている。  
※「義勇軍」は、満州では「義勇隊」と称した。